神奈川県立平塚ろう学校　令和３年度第１回学校運営協議会　開催報告

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立平塚ろう学校における第１回学校運営協議会
開催期日	令和３年７月９日（金）
開催場所	書面開催
出席者	神奈川県立平塚ろう学校　学校運営協議会委員９名
次回開催予定日	令和３年 11 月下旬
問合せ先	平塚ろう学校　　副校長　星野 電　話　　0463-32-0913 ＦＡＸ　　0463-32-1646 電子ﾒｰﾙ　hirarou-sd@pen-kanagawa.ed.jp
議題	（１）平塚ろう学校グランドデザインについて （２）学校教育計画（Ｒ２～Ｒ５）について （３）令和２年度学校目標について （４）年間計画及び実施日程（予定）について （５）平塚ろう学校不祥事ゼロプログラムについて
審議（会議）経過	＜平塚ろう学校グランドデザイン＞ 【意見】 ・学校のミッションである乳幼児期から高等部までの一貫した教育が、教育目標や教育過程において、整理され分かりやすく表現されていると思います。 ・新型コロナウイルス感染症対策を進めながら、幼稚部から高等部までの一貫した教育の充実を期待しております。 ・５つの柱「まなぶ」「はたらく」「くらす」「ささえる」「まもる」はどれも大切な事柄です。 ・まなぶ・はらたく・くらす・ささえる・まもるの５本柱を土台とし、子どもたちの生活面の自立と経済面（就労）をサポートする理想的な構造になっています。 【質問】 ・「まなぶ」「はたらく」「くらす」「ささえる」「まもる」５つの視点からの取組に期待いたします。中でも「自己肯定感の育成」の視点は重要だと思います。子どもたちの自己肯定感を高めるための実践例などありましたらお聞かせいただけると幸いです。 【回答】 ・ほめる。特に何かを手伝ってくれた場合は、「とても助かった、ありがとう」と言葉をかける。（幼稚部）

	・年に１回から２回、成人ろう者の話を聞く会を設け、どのように社会で働き、生活しているかを講演してもらっています。また、月に１回程度、聴覚障害者協会の読み聞かせボランティアを利用し、講演だけでなく、先輩であるろう・難聴者と触れ合う機会としています。家庭で、聞こえる家族の中に一人だけのろう・難聴者として生活している児童も多く、身近なロールモデルが少ないろう・難聴児にとっては、大切な機会だと考えています。（小学部） ・昨年度コロナ禍で中学２年生の一日職場体験が中止になったため、学校内の様々な業務を体験することにしました。その中で、自分が作業したことが他者に感謝され、評価されるという経験を通じ、自己の存在や行為を肯定的にとらえる機会となりました。また、体験後の発表会を通じ、自己の経験を確認し、自信につながったとともに、他の生徒の発表を聞き、他者を認める態度が身につきました。（中学部） ・本校では、地域のろう・難聴児の支援も行っています。地域の学校の中でのマイノリティであるろう・難聴児は、身近なロールモデルに出会える機会がなく、同じようにきこえにくい同年代の友達も作りにくい環境で育っています。本校では、小中学生を対象とした通級による指導を行っていますが、個別指導だけでなく毎月の集団学習の機会を通して、子どもたちが共感しあい、学び合いながら自己認識を育んでいっていると感じています。また、毎年夏休みに、地域のろう・難聴児と保護者が一緒に遊んだり、話したり、先輩の話を聞いたりできる機会として、「サマーコミュニケーションスクール」という交流会を開催しています。普段なかなか言えないことを話し、共感しあいながら自分について考え、少し先も見通せる場を作ることは、子どもたちがきこえにくさを含めて自分を肯定的に捉えていくために、とても大切だと考えます。（支援部） ＜学校教育計画＞ 【意見】 ・計画策定時点での課題を整理し、目標と方策により改善していく流れが分かりやすいです。 ・新型コロナウイルス感染症の影響もありますが、様々な工夫を凝らして目標を達成されることを期待しております。 ・目標はしっかりと設定されていると感じました。 ・県内唯一の聴覚障害教育部門ということで県民からの期待も大き

	く、また関係機関からの専門的な知識の情報共有をお願いされることもあろうかと思います。今後も連携をさせて頂き、子どもたちの支援に繋げていきたいと思います。 ・聴覚障害教育の特別支援学校としての専門性を発揮され、乳幼児期からの早期の相談・支援、幼稚部・小学部・中学部・高等部の一貫した教育、また専攻科など特色ある職業教育の充実に取り組まれることを期待いたします。 ＜令和３年度学校目標＞ 【意見】 ・学校教育計画に沿った「視点」ごとに、その取組がまとめられ、具体的な方策と評価の視点が整理されていて、評価しやすいと感じました。 ・上記の「学校教育計画」においても同様ですが、方策をさらに具体的にしたほうが良いと思いました。（スケジュールを含め）評価の観点も抽象的な印象を受けました。 ・切れ目ない支援体制の構築に向けて、関係者間による情報共有の場を設定し、ニーズに応じた支援を充実させると同時に地域の支援力を高めるという点に注目いたします。コロナ禍の中にあっても、センター的機能を果たされるとともに、「ともに生きる社会の実現」に向けて、地域と活動を共にすることで、ろう・難聴児に対する理解の推進を図られることを期待いたします。 【質問】 ・教育課程・学習指導の目標に掲げられた「ＩＣＴ等を活用し、視覚的支援を活かした指導」について、どのようなことを行われる予定ですか。 【回答】 ・「手話で遊ぼう」というクラス活動では、ｉＰａｄで作成した教材をテレビにつなげて見ながら保育を行うなど、視覚教材を使っています。（幼稚部） ・言葉の説明だけでは概念形成が難しいところを、図や動画を使用して概念理解につなげています。また、自分の知りたいことを日本語で打ち込まないと探せないインターネットは、日本語を知りたいという気持ちにも結び付くようです。（小学部） ・新型コロナウイルス感染拡大の影響による生徒に対する学習保障として、「学校の授業に自宅から参加できる体制づくり」や「学習

	を補完する授業配信、特に受検を控えている中学３年生に対する体制づくり」を行います。また、話し合い活動を「Ｍｅｅｔ」を利用することで、ＩＣＴ機器に慣れたり新しい話し合いのルールやマナーを学んだりする指導をしています。（中学部） ・絵本の読み聞かせを行う際に、小さな絵本では見にくいため、プロジェクターに投影しています。視覚障害のあるお子さんは、ｉＰａｄを利用して手元で見られるようにして、絵の詳細まで楽しめるようにしています。（校内各部での実践例、総務部より） ・メダカの卵を見る際に、カメラに拡大器をつけて、卵の中でメダカの心臓が動いている様子を観察しました。（総務部） ・算数の問題をみんなで一緒に考えようと、という課題で、一つの問題をプロジェクターで投影し、問題の解き方を画面を見ながら意見交換をしました。（校内各部での実践例、総務部より） ・重複障害の子どもの学習では、友達の発表の様子を動画で撮り、後で手話の表現を確認したり、新しい手話を覚えたりしています。（校内各部での実践例、総務部より） ・生徒会活動時の会議の際に、分散教室で行わなければならず、ｉＰａｄでチャット会議を行っています。（総務部） ・マスク着用で授業を行うため、口形が見えないので、ＵＤトークを活用し、ＴＶモニターに話している言葉が出るようにして補助的に情報保障をしています。（総務部） 【質問】 ・進路指導・支援においてコロナの状況では、リモートによるＺＯＯＭ面談等になることもあったかと思うのですが、今後の就労指導をどのように展開し、不安のある保護者へはどのようにお伝えしていくご予定ですか。 【回答】 ・卒業生や企業の担当者など外部講師を招いての学習会は例年通りの形での実施が難しく、リモートや事前資料を活用した学習など形式を工夫して実施しました。現場実習や見学等については、実施時期をずらしたり、先方やご家庭と感染症対策や実施の可否について丁寧に相談したりすることで、対面で実施することができています。一方、進学については、オンラインでの説明会を行うところも多く、実際に見学に行ったり、直接話を聞いたりすることがしにくい状況が続いています。また、リモートによる面接など新しい試験の形式も増えてきたため、大学と家庭との間に入り、

	入試や入学後の情報保障について丁寧に確認ができるよう、支援を行っています。今後は、大学職員を講師に招き、大学の授業や学生支援に関して学ぶ機会を設定したいと考えています。引き続き、就労、進学両面において、可能な限り、体験したり直接やり取りしたりできるような進路学習の機会を提供していく予定です。（進路支援係） ・ 中学部は直接就職指導をする段階ではありませんが、①「働く」ことで社会参加をすること②世の中にはどんな職業があり、自分にはどんな適性があるのか③高等部卒業までに身につけるべき力について考える機会を持つことに主眼を置き、特例子会社の出前授業、近隣の公共施設や企業の見学や一日職場体験等を実施する予定です。（中学部） ・ 重複障害課程の生徒の高等部卒業後の進路として、福祉事業所利用の可能性を視野に入れ、保護者に対し就労支援系・生活介護系などの事業所の違いや利用までの流れや事業所情報を保護者に適宜提供して、生徒が充実した社会生活を送ることのできる進路選択の実現を図っています。（中学部） ・ コロナの状況下でコロナ前と同じスケジュールでの実習や就労指導を行うことはできませんでしたが、「コロナ禍だから進めない」のではなく、できる方法を考え行えることを進めています。見学会や外部講師による授業はオンラインや資料などを使い学習しています。現場実習など外部機関を利用する場合は、先方や保護者と相談、確認しながら生徒の体験の機会を作れるように丁寧に進めています。（高等部） ＜年間計画及び実施日程（予定）＞ 【意見】 ・ 年間３回に渡る運営協議会の予定ですが、コロナ禍の状況は悪くなる一方です。子どもたちの地域での学習の場は少なくなるとは思いますが、先生方のアイデアで乗り切っていただきたいと思います。また、進捗の報告が楽しみです。 ・ コロナ禍にあっても、「切れ目ない支援部会」が発足・開催され、具体的な活動の一歩を踏み出すことができるとよいと思います。 ＜平塚ろう学校不祥事ゼロプログラム＞ 【意見】 ・ 不祥事ゼロに向けて、我々外部の委員もご協力いたしますので、で

	きる事は申し付けください。 ・ 教職員が講師を担当されるなど、教職員全員が不祥事ゼロに向けた取組を進められていると感じました。 ・ 毎月一項目ずつ計画を立てて教育の実施プログラムが組まれ、担当もしっかり決められているところが良いと感じました。 ・ 不祥事ゼロに向けて、ほぼ毎月、目標を掲げて、全職員で意識を高めていく活動となっており、職員の方が自ら担当し、周知することで責任感も生まれるのだと感じました。 ・ 「質の高い同僚性の発揮による不祥事防止（言葉をかけあう）」という言葉にうなずかされました。教職員の皆様の日常的なコミュニケーションも大事ですが、具体的な「言葉をかけあう」機会や場を設定されると効果的ではないかと思いました。 ＜その他＞ 【意見】 ・ 幼児・児童・生徒一人ひとりが活躍される場面が増えることを期待しています。 ・ 数年前に計画された生徒たちによる太鼓の演奏会の催しなど地域との絆を深められるよう努力していきたいと思います。 ・ 地域との交流がしにくい時期ではありますが、時期をみて何かしら交流できるといいですね。 ・ ７月３日平塚市に「緊急安全確保」が発出されました。レベル５の対応ということでしたが、たまたま土曜日であったために休園でしたが、今後いつ同じ事態に見舞われるか分かりません。レベル３の時点で避難を開始させて頂くにあたり、追分地区に浸水が迫った場合、貴校の２階スペースに引き続き、一時避難をさせて頂けますよう改めてお願い申し上げます。 ・ コロナ禍にあっても、日々、子どもたちの安全安心を守り学校生活・社会生活の充実を図っていこうと尽力されている、校長先生をはじめ教職員の皆さまに敬意を表します。学校運営協議会委員として、子どもたちの学びの充実や地域活動の活性化に少しでも寄与できますように、参加させていただきたいと思います。 ・ 幼児・児童・生徒の皆さま、保護者の皆さま、校長先生をはじめ教職員の皆さま、また地域の皆さま、関係の皆さまのご多幸をお祈りしております。